

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491500037	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ白寿庵真鶴		
所在地	(〒259-0201) 神奈川県 足柄下郡 真鶴町 真鶴 1819-1		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	24 名
		通い定員	12 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	4 名
		定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年1月15日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ 地域に長く暮らしていच्छるご利用者様方が、小規模多機能型居宅介護をご利用することで、地域の生活を引き継ぎつつ安心した生活を顔見知りの関係の中でしていただき、安心した生活を続けていける。 ・ 早朝（7時前）から夜間帯（19時すぎ）までの通い利用延長をご家族の都合に合わせて行っており、ご利用者様の在宅での生活が可能になっている。 ・ 地域の方々とも顔見知りであることから、地域の行事等で自治会の協力をもらうとともに、行事に出かけた際地元の方々の協力も得られている。 ・ 季節ごとの飾りと行事を大切にしているので、ご利用者様に楽しんでいただけている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年2月12日	評価機関 評価決定日	平成26年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇開所（平成21年4月）以来の職員が多く、職員が参加して作成した事業所の理念、それに基づくサービス提供が忠実に行われている。また、職員は笑顔で利用者や家族に接し信頼関係を築いている。利用者の笑顔、家族の感謝の言葉が職員の仕事に対するやりがいに通じ、そのことが定着率の高さに繋がっている。 ◇職員も利用者も殆ど地域の人なので利用者の友人や地域の住民が事業所の行事に多数参加し、また、利用者は地域の行事に積極的に参加し日常的に交流している。地域の人々によるフラダンスやそろばん教室などのボランティアを積極的に受け入れている。 【事業所が工夫している点】 ◇事業所の玄関前の道路は交通量が多く、しかも坂道になっているので散歩には適していないが、その代わり利用者の希望を取り計画的にバス旅行を積極的に行っている。梅や桜の見学、みかん狩り、三島大社などに行っている。同時に馴染みの場所である近場の真鶴港や真鶴半島に出掛けている。 ◇併設のデイサービスと共用で使用している機能訓練室で利用者たちは腹筋運動、歩行訓練などの機能訓練を行っている。その結果体力維持ばかりでなく要介護度が低下し要介護から要支援になった人もいる。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ミモザ白寿庵真鶴
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	レ	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	レ	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	レ	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	レ	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・管理者と職員は話し合いにて、サービスに反映できる独自の理念を作り、現在行っている。	・理念『自由な時間、安全でかゆい所に手が届くケア、地域や家族との交流、健康で自立した毎日』を職員が参加して作成し掲示している。 ・職員はその人の行動・希望を尊重し、毎日が楽しく、充実するように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に加入しており、祭りや運動会など地域の行事への参加を要請され、参加に対しても快く受け入れてもらっている。 ・利用者様の知人や商店の方、地元の小学校・幼稚園の生徒達が、気軽に訪問してくれている。	・自治会の行事や町主催の貴船祭りなどに積極的に参加している。 ・併設のデイサービスの利用者と日常的に交流し、また地域住民によるフラダンスなどのボランティアを受入れ、小学生や幼稚園児が訪問し利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地元の方の健康などを目指して、月に1回マシンを使った運動やミモザ独自の体操を紹介している。 ・イベントの時などに、福祉用具の事業所とタイアップして、説明会などを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月ごとに地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族代表、当施設職員の参加で開催し、要望等を共有しサービス向上に生かしている。	・運営推進会議では事業所の活動報告を行なうほか、出席者と意見交換をしている。 ・地域の行事への誘い、避難訓練に関する意見などがあり、事業所の運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・真鶴町役場では、日頃から困難事例の相談や運営についての相談を気軽に受けてもらっている。	・行政の担当部署への書類の提出時や毎月開催の事業所連絡会（地域ケア会議）に参加した際に行政担当者に直接事業所の実情を伝えるなど日常的に交流し、いつでも町役場と連絡が取れるようになっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束禁止マニュアルがあり、職場研修でもスタッフと話し合い、拘束をしないケアを全員で意識して取り組んでいる。 ・玄関はすぐに交通量が激しい道路があることから施錠しているが、事業所内は、自由に行き来ができるようになっている。	・職員は研修を通じて身体拘束禁止マニュアルを周知し、これに沿ったケアに取り組んでいる。 ・玄関前の交通量が多く、しかも坂道なので万が一の事故に備え玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用契約書、重要事項説明書に明記。虐待、拘束の現金を各職員に徹底するとともに、外部、内部各研修への積極的参加促進を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・地域福祉権利事業や成年後見制度についての研修に積極的に参加し、職員間で内容の共有化を図り、意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用契約時にしっかりと説明し、納得をいただいた上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日常生活の中で、利用者やご家族と職員が信頼関係を築き、それぞれが自由に意見を言えるよう努めている。 ・連絡帳や手紙にて、要望等を頂いている。	・送迎時、自宅訪問、連絡帳、日常会話などで利用者、家族の意見や要望などを把握し、可能なことは事業運営に反映している。 ・行事への要望があり、三島大社などに行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のケア会議や毎日の申し送り時に、管理者と職員で話し合いを持っている。 又、月1回事業所全体での職員会議を行い、職員全員の意識統一を図っている。	・毎月の職員会議、朝夕のミーティング、申し送りノート、管理者との日常的な会話で職員の意見を把握し、その都度検討し反映している。 ・毎週、事業部長が来訪し職員と直接、会話をすることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者は、勤務実態について毎月把握しており、給与水準の向上に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は、職員が計画的に外部の研修を受けられるように体制を整えている。 また、社内研修のためのセンターを完備し、それぞれの立場で育成をおこなう取り組みが確率している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・真鶴町の事業者連絡会に参加し、ネットワークを作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居事前相談時より、利用者が持っている不安、困難、疑問を時間をかけてお聞きするなど「傾聴と受容」の姿勢を忘れずに信頼関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の一番困っていること、心配事をお聞きして、必要と思われる情報を積極的に提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談をじっくり聞き、小規模多機能型居宅介護のサービスが適切か入居が適切かどうかを見極め助言している。 情報の提供は行われており、一緒に一番適切なサービスを探っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、各利用者の得意だったことや、社会的背景を教えてもらいながら、些細なことでも目標を持って取り組んでいけるようにして、お互いが信頼して行けるように取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族とコミュニケーションを良くして、本人と一緒に支えていっている。 ・家族も一緒に行事に参加していただくなどして、共通の話題作りを手伝っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今まで大切にしてきた友人や親族と自由に交流できるよう、訪問を歓迎したり、要望によって、一緒に馴染みの店へ、買い物に同行している。	・アセスメントや利用者、家族との日常会話などで馴染みの人や場所を把握し、日々のサービス提供に役立たせている。 ・馴染みの店への買い物同行、真鶴港や真鶴半島などへの遠出を支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者が孤立しないで互いに交流できるよう、職員が配慮している。 気のあった仲の良い利用者同士で外出時散策をしたり、席の配慮をおこなうなど声かけに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ご利用を終えたご利用者様のご家族やご本人の相談にも、積極的に乗っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・毎日の生活の中から、利用者それぞれの思いや希望を把握するように努めている。聞き取り困難な利用者についても、家族の意向を聞き取り、職員の意見なども反映して、情報を共有している。	・利用者と職員は日々の生活の中で信頼関係を深め、会話などを通じて思いや意向を把握している。 ・意思疎通が困難な利用者には、家族からの情報や日々の行動や仕草から思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族や利用者から、生活歴や日頃の暮らしぶりを聞き、これまでの生活についての情報を得ながら、個人の生活を大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者の現状を把握して、ひとりひとりの1日の過ごし方を一緒に考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者の残存機能を活かした自立支援にむけて、常時カンファレンスを開催してモニタリングに反映している。結果を介護計画の作成に活かして半年から1年の期間で見直している。	・3か月ごとにモニタリングを行い、事前に利用者や家族の意向を把握し、毎月のケース会議で意見交換をして介護計画に反映している。 ・介護計画は短期目標3か月、長期目標12か月であるが、利用者の状況に応じ、総見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録を個別に記入して、職員同士情報を共有しながら、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族のニーズや本人の状況に合わせて、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・自治会、地域包括センター、地域住民、在宅支援医療センター、職員が参加する運営推進会議を開催し、地域ボランティアなどと協働して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・サービス開始以前のかかりつけ医に継続してかかってもらっている。家族の依頼により、通院の支援を行っている。	・利用者は従来のかかりつけ医を継続し、通院は原則として家族にお願いしている。都合がつかないときは職員が通院を支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常の健康管理について、気軽に相談でき支援も顔なじみの看護師に相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療機関と連携を密にし、早期退院にむけ情報交換、相談に努め支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期ケアについての対応は、家族の意向と事業所の意向を共有化し、支援に取り組めるよう努力している。 ・地域の在宅支援診療所との連携も考慮に入れている。	・現在はターミナルケアに向けて準備中であり、在宅支援診療所との連携を考慮中であり、職員はターミナル研修に取り組んでいる。 ・家族から相談があった場合は、訪問看護を紹介するなどの支援をしている。	・利用者の介護度が高くなる傾向にあります。会社の方針を踏まえ、事業所としてターミナルケアの方針を明確にすることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時のマニュアルがあり、全職員は応急手当や初期対応について研修を行っており、実践力を身につけるよう努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災訓練を消防署の指導のもと、年に1回、夜間想定訓練を年に1回行っており、消火器の使い方も訓練している。 ・最低1日は全利用者が通ってきても大丈夫な程度の備蓄品を、揃えている。	・防災訓練は年2回行っている。本年度は6月に湯河原消防署の指導のもとで実施し、11月に16時30分から夜間想定で行った。 ・備蓄品として食料品、日用品を備え、リストを作成し管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者に対して、利用開始時契約書で「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を約束している。また、全職員は自尊心を大事にした言葉がけをしている。	・本社や事業所でプライバシー、接遇、認知症の研修を受け利用者への理解を深めている。「失礼します」の言葉かけや、名字は「さん」をつけて呼ぶなど利用者の尊厳を大切にする言葉かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で、毎日の過ごし方、洋服など自分の思いを表せるよう働きかけ、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者は、自分のペースで過ごして、職員はそれとなく見守りをして自分らしい生活を過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。また、理美容は、本人の望むようにしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理レクなどを通して、調理を楽しんでいただくとともに、月に1～2回の外食会や出前などで、好きなものを召し上がってもらい、食事を楽しんでもらっている。	・アンケートで希望を把握して献立に反映し、また、職員と一緒におはぎなどを作り楽しんでいる。 ・利用者の状態に合わせてとろみ食や刻み食で食べやすくしている。 ・利用者は出来る範囲の準備と配膳などを手伝っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人一人の状態を常に観察し、また今までの習慣などを家族にお聞きして、水分量や食事量を適量確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・全職員は、口腔ケアの大切さをりかいし、声かけ、見守り、一部介助にて口腔ケアを励行し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・一人一人の排泄パターンをつかみ、誘導することにより極力布パンツの利用を心がけている。 プライバシー保護に努めた介護を心がけている。	・意思表示をする利用者にはさりげなくトイレ誘導をしている。ほとんどの利用者は自立出来ているので、外出の時などに声をかけるなど、自立の妨げにならないように見守りを中心にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・利用者には、なるべく身体を動かしてもらい、また、繊維質の多い野菜中心の献立を心がけるなど、工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・入浴は基本的に週3回であるが、希望により毎日入浴も実施して、入浴剤やゆず、菖蒲など季節感を大切にしてしている。	・入浴は最低週3回としているが、希望があれば毎日入浴出来る。 ・利用者の好みの湯温に調整し、入浴中は職員と会話を楽しんでいる。 ・ゆず湯や菖蒲湯など季節の行事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・不安により眠れない利用者には、職員が話し相手になったり、個々の生活習慣を大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は、個々に使用している薬について常に勉強を行っており、目的や副作用について勉強している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者の生活歴や能力に応じて、ハリのある生活ができるよう、支援している。また、気分転換ができるように、外出訓練やボランティアによるイベントなど月に1～2回行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日には、ドライブなどを行い、また、月に1～2回は花見やみかん刈りなどの外出レクを行ったり、外食会を開いている。家族が一緒に行くこともあり、利用者は、楽しみにしている。	・利用者から買い物に出かけたいと要望がある時は用品店などに一緒に出かけている。 ・外出レクリエーションを毎月計画し、三島大社や花見など家族も一緒に出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者は、個々にお金を保持しており、地域の祭りなど好きな時に好きなように使うことができる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を持ち、家族と連絡を取り合っている方もいる。近所の方からの電話も取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは、常に季節感のある飾りを取り入れており、テレビをみたり、気ままに会話をしたりと思いつくにつろいでもらっている。	・居間は明るく清潔で、室温は床暖房とエアコンで調整し、湿度は加湿器で調整している。 ・壁に利用者が作成した豆まきの鬼とお多福のカレンダーが飾られ、季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・横になりたい方には、ソファで横になってもらったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各居室には、自宅にて過ごされた環境に少しでも近付けるよう配慮している。	・お泊まりの居室は4室あり、ベッド、チェスト、寝具を備えている。利用者はパジャマや着替えなどを持ち込み、通いで預けてある日常生活品を使用して居心地良い生活を送ることができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーを意識した建物で、手すりの設置は無論のこと、車椅子やシルバーカーの使用ができるよう工夫されている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ白寿庵真鶴
小規模多機能型居宅介護

作成日 2014. 3. 1

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	ターミナルケアに関する事業所独自の方針がめいかくにされていない。	事業所として、今後ターミナルケアを受け入れていく。	研修を設け、ターミナルケアに向けたスタッフの意識を高めていく。 在宅支援診療所との連携を密に取り支援して行けるよう体制を整える。	1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。